

ショートパネル

ピアリング

past, present and future

2002.7.26

インテック・ネットコア

荒野高志

発表要旨:

- 今は昔, 飲んだ勢いでPeeringの交渉をしていた時代から, 現在の”PeeringはBusinessだ”といったような, 今までのPeeringの歴史をEngineer側からの視点とマネージメント側からの視点を鋭く比較してみる.

メンバ

■ パネリスト:

- 石田慶樹 (メディアエクスチェンジ)
- 水越一郎 (NTTコミュニケーションズ)
- 伊勢幸一 (スクエア)
- 石井秀雄 (アジアグローバルクロッシング)

■ チェア:

- 荒野高志 (インテック・ネットコア)

パネルの構成

- イントロ(荒野) 5分
- ピアリングの現状と今後 30分
 - データセンタの立場/パブリックリソースとピアリング(石田)
 - 大手キャリア/ISPとしてのピアリング(水越)
 - コンテンツ屋の立場から(伊勢)
 - バックボーンプロバイダビジネスとピアリング(石井)
- 議論
 - 各ビジネスエンティティの意図の理解
 - 妥協点?
 - IPv6時代のピアリングはいかに... Tier1をどうとるか...

ピアリングの歴史

- みんなが対等な平和な時代 -1996
- 世界のTier1でpeerを拒否しはじめる 1996-7?
 - IXが混んできてまともなトラフィック交換のためにはprivate peerが必要だったような時代
- 少し遅れて日本でもこの動きをフォロー
- クライテリアの変遷
 - 東西海岸45Mと主要IXへの接続
 - 海外展開
 - コンテンツ
 - トランジットが条件 or ペイドピア
 - 資本関係やその他のビジネス関係があったら断れない☺
- 実態はNDAの中でよくわからない...

Tier1再考

どうやって現在のTier1はできてきたのか？

■ 歴史的経緯

- 最初にTier秩序ができはじめる時点ですでに規模が大きかったISP同士がTier1になっていった
 - 大きいISPほど顧客にとって魅力的なのでますます大きくなっていく
 - 密室的ピアリング交渉が後発のISPを締め出していく

■ 地理的条件

- 米国は欧州 / アジア両地域からみてファイバ構成的に中間に位置